みんなの
ための
学校長会に

茨城県 学校長会広報

第248号
発行者
茨城県学校長会
会長　小野瀬 繁子
事務局
〒311-1125
水戸市大場町933-1
教育プラザいばらき内
☎ 029－269－1300
FAX 029－269－1304

特集　特色ある学校経営
行財政・調査研究委員会の要望や取組

地域とともに

那珂・額田小
菊地　秀典

五月の分散登校の期間に、地域の方々のご指導で、五年生が田植えを行いました。

児童が田植えをしている田んぼは、学校の敷地内にあります。畳一四畳分ほどの広さですが、保護者や地域の方々が臨時休業期間に整備してくださり完成しました。

五月に植えた苗は、夏の日差しを浴びて立派な穂をつけていました。これからも、保護者・地域と手を携え、稲穂のように心も体もたくましい児童の育成に努めていきます。

目次

○表紙写真に寄せて……1
○（特集１）特色ある学校経営　2
○（特集２）行財政・調査研究委員会の要望や取組……6
○課題「学校の新しい生活様式での教育活動と人材育成」…7
○経営研究「創意工夫を生かした特色ある教育課程」……8
○特別寄稿「コロナ禍における学校経営～「合意形成」と納得解～」……10
○市町村教育委員会と学校長会　11
○梅のかおり……12
○ひばり……15

特色ある学校経営

特集 1

小中一貫教育を中心にした学校づくり

小美玉・小川南中　稲田　雅志

本校は、小美玉市の東南部に位置し、生徒数二五七名、学級数一五（特別支援二含）の中規模校である。校舎からは筑波山が一望できる自然豊かな地域であり、生徒は明るくまじめに学校生活を送っている。

また、本校は平成二九年四月に、小川高等学校跡地へ校舎を移転している。学区内の小学校二校合併に伴うもので、本校跡地に統合・小川南小学校が昨年四月に開校している。本校学区に小学校が一校になったことで、昨年度から小中一貫教育の推進に取り組んでいる。

一　小中一貫教育基本方針

九年間を見通し、地域の特色を生かし、知・徳・体のバランスのとれた児童生徒の育成を目指すための教育活動の充実を図る。

二　小中一貫教育の取組

(一)学校経営案の作成

小中連携し、地域の特色や発達段階を配慮し、共通の学校目標や目指す学校像、児童生徒像、教師像などの学校経営案の作成・見直しを行う。小中学校で共通理解を深めながら、九年間を見通した教育活動を展開する。

(二)「小川南スタイル」の実施

新学習指導要領のねらいである「主体的・対話的で深い学び」のある授業を目指して、小中学校で基本的な授業の流れ、学習形態の共通理解を図り、授業を行っている。これにより、学力の向上を目指すとともに、中学校進学後も各教科の学習への円滑な移行を図る。

(三)授業の相互参観

フリー授業参観等の学校公開日や訪問指導などを活用して、小中学校の教員が相互に授業参観する機会を設定することにより、学習内容の系統性などの理解が教員に深まり、授業改善につながっている。

(四)専門性を生かした授業交流

小学校の技能教科（図画工作、音楽、体育）や算数、外国語活動の授業で中学校教諭とT・Tを行うことで、専門性を生かした互いの授業研修とともに、発達段階を踏まえた授業展開ができ、児童の学力の向上も図れる。また、中学校教諭と児童が触れ合うことで、中学校への不安を取り除き、円滑な接続を図れる。

さらに、小学校教諭が、中学校の部活訪問や、専門教科のT・Tに入ることで、生徒の励みとなり、また、小学校教諭も中学校を見通した指導が行え、授業力向上につながる。

(五)学校運営協議会の一体化

学校運営協議会メンバーを小中学校で同一にすることで、学校運営の改善と地域づくりに資する活動の推進を図る。

(六)研修体制

・長期休業中の合同研修
・九年間を見通した年間指導計画や系統表の作成
・合同生徒指導部会（生活のきまり、通学路点検、パトロールなど）

(七)児童生徒の交流

・合同行事の開催
あいさつ運動、合同引渡訓練、家庭学習強化週間
・運動部・文化部、委員会の交流
部活動体験、合唱祭の歌唱における中学生による指導、合同委員会活動

三　今後の取組

(一)合同管理職会議、教務主任等を交えた合同企画会を学期に一回以上開催し、共通理解を深めながら、九年間を見通した教育活動を展開する。

(二)行事の調整、教諭の授業交流のための日程調整や授業づくりの合同研修を行い、授業力の向上と児童生徒の学力向上を図る。

(三)合同研修会を開催し、教諭間の情報共有と共通理解を深める。

新型コロナウイルス感染症の影響により十分な連携が図られていない点もあるが、児童生徒の九年間の円滑な教育活動のために努力していきたい。

九年間で育てるよさを生かした地域に愛される学校づくり

常陸太田・水府小・中　田所　俊哉

一　はじめに

本校は、常陸太田市のほぼ中央部・旧水府村にあり、学区には平成六年の完成当時、歩行者専用として日本一の長さを誇り、鯉のぼりまつりやバンジージャンプで観光客を集めている竜神大吊り橋がある自然豊かな地区である。

平成三〇年度、二つの小学校と一つの中学校を統合し、施設一体型の小中一貫校として開校し三年目を迎えた。昨年十二月末に新校舎が完成し、今年度末には体育館も落成予定である。

全校の児童生徒数は一四七名、学級数は一三（内・特別支援学級四）である。児童生徒は明るく素直で、何事にも精一杯取り組んでいる。一方、主体性や自己肯定感、表現力に課題がある。そこで、「自分の考えを表現できる力の育成」を目指し、全職員でよりよい学校づくりに取り組んでいる。

二　ふるさと学習（生活科・総合的な学習の時間）の充実

本校の学区には、「二孝女物語」という、江戸時代、若い娘二人が、旅の途中で病に倒れた父を尋ねて、三百里も離れた豊後の国から旅をし、七年ぶりの再会を果たすという実話が残されている。物語でつながった大分県臼杵市の川登小とは、統合前から交流が続いている。

この物語を軸に、旅人を七年間も支えた、その時代から受け継がれている人の優しさを地域の誇りに思える子供の育成を図っている。また、「水府ガイドブック」の作成等をとおした異学年交流など、教科等横断的な視点でふるさと学習を実践し、九年間をかけて水府の魅力を発見し、未来の水府地区の活性化に向け積極的な発信ができる子供の育成を図っている。

三　外国語をとおしたコミュニケーション能力の育成

外国語科・外国語活動の指導にあたっては、小学校教員の中に英語の免許を有する教員が六名もいる恵まれた人的資源と、小中の乗り入れ授業も活用し、全学年で専科が入ったＴＴの授業を展開している。

また、今年度より、コミュニケーション能力育成のため、小中合同で週一回のイングリッシュ・チャレンジ・デーを設定し、外国語によるコミュニケーション活動に取り組んでいる。この日は、通学時の英語の挨拶から始まり、給食時はＡＬＴによる英語放送、昼休みのコミュニケーション活動と、できる限り英語にふれる時間が確保できるよう工夫している。さらに、下校時に児童クラブの職員も巻き込むなど、わくわく感のある活動へと広がっている。「照れくさいけど、なぜか元気になる」という教員、「英語を使うと気分が上がる」と感想を述べる児童。九年間でどれだけの変容が見られるか、今後が楽しみな活動として定着している。

四　四・三・二制を生かした取組

九年間をとおして学級や学校のために活躍できる場や、それらを認め合える場を、前期（小学一年から四年）、中期（小学五年から中学一年）、後期（中学二・三年）のブロック制に区切って設定し、活用を図っている。例えば、絆づくり集会で、それぞれのブロックの発達段階に合わせたテーマで話し合ったり、水府五輪（体育祭）にブロック種目を設定したりして、小中の最高学年だけでなく、小学四年生や中学一年生にもリーダーシップを発揮できる場を設け、自己有用感の育成を図っている。

なかでも、中期ブロックの交流は、中一ギャップの緩和にも成果が見られ、今後の交流の活性化により、さらなる効果へとつなげていきたいと考える。

五　むすびに

本校は、多様な学習形態に対応できる新校舎をもちながら、コロナ禍による制限等でその特性を生かした実践の未だスタート地点にある。木の温もりの中で豊かな感性を育みながら、特色ある学校づくりを展開し、九年間で育てる地域に愛される学校づくりを推進していきたい。

「夢と豊かな心を育み、一人一人が輝く学校づくり」を目指して

鹿嶋・中野西小　浅野　典子

一　はじめに

本校は、北浦の湖岸沿いに位置し、自然豊かでのどかな環境に位置している。創立一四五年目を迎え歴史と伝統があり、本校のシンボルとも言える「多行松」は、多くの子供たちの成長を見守ってきた。地域の学校愛が深く、毎日、登校班に付き添ってくださる自警団の方々、正門で三〇年来立哨してくださる方等、地域に愛され大切に子供たちを見守ってくださる方々に日々感謝の気持ちである。

二　めざす学校・児童の姿

本校は、児童数六七名、教職員数一八名と小規模校である。

今年度の学校経営のキーワードは「一人一人が輝く中野西」である。小規模校の強みを生かして、様々な場面で一人一人の自己肯定感を育て、楽しく笑顔で学校生活を送らせていきたい。そのために、「チーム中西」を合言葉に教職員全員が一丸となって、組織的・協働的に取り組んでいる。

三　本校の特色ある主な取組

㈠　自ら学ぶ子プロジェクト

児童が主体的に学び考える力を身に付けるために「児童の主体性を引き出す授業づくり」に取り組んでいる。今年度は、鹿嶋市情報教育研究

（プログラミング教育）の指定を受けている。

ア　端末機器を活用した休校期間等での在宅オンライン授業の実施

イ　ロイロノートの学習支援ソフトを活用し、各教科の特性を生かした授業の実践

ウ　プログラミング的思考の育成

これらの実践を通して、日々研修を行っている。このコロナ禍においては、情報教育に視点を置き「つなぐ」そして「むすぶ」「深める」ことを授業づくりの中で意識して取り組んでいる。これから求められる各教科の「ものの見方・考え方」を働かせた本質的な意義を柔軟に考え、授業づくりを実践していく。

㈡心豊かな子プロジェクト

本校では、伝統的にあいさつ運動「指タッチ運動」を実施している。今年度は休止中だが、毎朝、計画委員会が中心となり、児童用昇降口で人差し指と人差し指であいさつを交わしている。大きな声が出せない児童でも指タッチでコミュニケーションを図ることができる。また、「六七人が活躍できる場づくり」においては、運動会や地域公開として実施している「中西フェスティバル」等児童の発想とアイディアを大事にするために実行委員会等の組織を活かした運営を行っている。運動会終了後の解団式での児童の思いはしっかりと後輩に受け継がれている。

㈢健やかな子プロジェクト

昨年度、鹿嶋市内小中学校で防災教育に取り組み、一人一人に「防災ハンドブック」を作成した。不審者対応や大規模地震等予測困難な災害が多い時代の中で、自己管理能力を育てる指導も必要である。家族とのコミュニケーションのツールとして、非常時の判断に活用できるよう指導の中に位置付けている。

三　おわりに

本校に勤務して二年目。六七名の子供たちと保護者の皆様、学校のために力になってくださる地域の方々、子供たちのために日々頑張っている職員たちと共に「チーム中西」一丸となって、「夢と豊かな心を育み、一人一人が輝く児童の育成」のために学校経営を進めていきたい。

つながりを生かして学びを深める児童生徒の育成

守谷・黒内小　荒井　弘勝

一　主題設定の理由

本校区では、守谷中学校区の重点目標「『主体的・対話的で深い学び』を通して、生きて働く知識・技能を習得し、学力の向上を図る」ことを掲げ、守谷型小中一貫教育を推進している。

そこで、策定された「視覚カリキュラム」を活用し、九年間の学びのつながりを可視化して学びを深め、本市教育目標の具現化を図るべく、本研究を推進した。

二　研究のねらい

守谷中学校区「視覚カリキュラム」を活用した小・中学校九年間における学びの連続性を生み出す授業づくりを通して、つながりを生かして、学びを深める児童生徒の育成について追究する。

三　研究の仮説

守谷中学校区「視覚カリキュラム」を活用して、中学校区全体で学びの連続性を生み出す授業づくりを推進すれば、つながりを生かして、学びを深める児童生徒を育成することができるであろう。

四　研究の内容

カリキュラム・マネジメントとは「子どもの学びのネットワーク化を図ることである」という考えの基、児童生徒にとって「意味のあるつながり」として、授業において、児童生徒がこれまでに身に付けた知識や技能のつながりを生むことで、深い学びを実現できるようにするべく、次の三点を掲げ研究を推進した。

㈠言語活動のつながり

話し合う、レポートを書く、発表する、新聞にまとめるなどの言語活動が、各教科の学習活動として有機的につながる。

㈡題材のつながり

対象となっている題材をつなげることで双方の学習への興味を高める。

㈢言葉や思考のつながり

各教科や領域を通してよく使われる大切な言葉や、思考過程に着目してつなげる。

五　研究実践

守谷中学校区の児童生徒の課題として、知識・技能のインプットのみが重視され、学びの過程が意識されないまま単一的な解答を求める傾向にあった。そこで、児童生徒の学びを深める教職員のつながりとして、「視覚カリキュラム」を活用した小・中学校九年間における学びの連続性を生み出す授業づくりの推進を実施した。中学校区での協働立案による授業づくりと、校種の垣根を越えたワークショップ型研修を取り入れての

研究実践を推進した。小中合同の協働立案による授業づくりを踏まえ、視点を共有した相互授業参観を実施した。さらに、これらの活動をＯＪＴ研修として位置付け、若手教員の資質向上に生かせるよう、継続的な取組を実施した。

小中の連携だけでなく、保幼小合同授業の実践では、協働で担当教員と保育士が授業づくりを進めた。

これらの授業を相互参観するに当たって、「授業参観のチェックリスト」を作成し、共通した観点から互いの授業を参観することができるようにし、研修効果を高めた。

六　研究のまとめ

守谷中学校区「視覚カリキュラム」を活用して、学習内容と、学び方を見いだし、学びの連続性を生み出す授業づくりを推進することで、学びを深める児童生徒の姿が見られた。

ペアトークや思考ツールを用いて、考えをより深めることを目的とした対話活動を授業に取り入れることで、互いの既習事項がつながり、学びを深める児童生徒の姿が見られた。

七　今後の課題

「視覚カリキュラム」を可視化し、授業づくりに役立てていけるようカリキュラム評価を進めていく必要がある。

学びの連続性を生み出す授業づくりを進める上で、教職員の意見交流による授業研究は不可欠である。教科等横断的に、校種の壁を越えた研修体制の整備を進めていく必要がある。

プロジェクトチームと地域とのつながりを生かした学校づくり
～自ら学び、心豊かでたくましく生きる児童の育成を目指して～

下妻・豊加美小　野口　修

豊加美小学校は、下妻市の東部に位置し、東に筑波山を臨む児童数一四八名の小規模校である。明治二二年に開校し、一三二年の歴史と伝統のある学校であり、温かで協力的な保護者や地域の方から「地域と共にある学校」として親しまれている。児童は明るく素直で、挨拶運動や委員会、ボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。

学校教育目標「自ら学び、心豊かでたくましく生きる豊加美の子～一人一人の個性が輝き、ともに伸びゆく学校」の具現化に向け、四つのプロジェクトチームを生かしながら、全職員が一致団結し、地域と連携して取り組んでいるのが最大の特色である。チーム会議は学期二回及び必要に応じて開き、数値目標の達成状況や手立ての効果を確認、話し合いながら、改善し、目標達成を目指している。

一　安全・安心な学校づくりプロジェクト

安全確保と安全管理の徹底を図り、命を守る自己管理能力を育てることを目指し、様々な施策に取り組んでいる。特に、交通指導と登下校指導の徹底に努めている。毎日下校パトロールを実施し、保護者にも協力していただいている。通学路点検は学期二回実施し、児童による通学班会議も学期ごとに実施している。また、危機回避能力を育てる避難訓練を年間四回、地域と連携して実施している。

二　学力向上プロジェクト

児童の学力を高めることは学校の重要な責務である。本校では、児童の主体的な学びを引き出す指導法の工夫改善に努め、進んで学ぶ子の育成を重点に取り組んでいる。特に、児童が自ら問いをもち主体的に考える授業の工夫・改善を柱に進めている。基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けては、一部教科担任制やＴＴ体制によりきめ細かな指導に努めている。朝の自習は、校長・教頭も含め全職員で指導にあたっている。また、コミュニケーション能力の育成のために、外国語や外国語活動の授業を担任がＴ１で行い、ＡＬＴとともに楽しい授業づくりを進めている。さらに、毎週火曜日にＥｎｇｌｉｓｈ　Ｔｉｍｅを設け、英語に親しむ時間を増やしている。また、できるだけ多く地域人財を活用した授業を取り入れている。

三　豊かな心の育成プロジェクト

体験活動を通して自主性・自立性を育み、心豊かで思いやりのある子の育成に取り組んでいる。特に、無言清掃や自己有用感をもてる係活動の他、自主的に行うボランティア活動や特別養護老人ホームとの交流などの体験活動を進めている。また、朝のあいさつ運動や読書、道徳教育の充実による思いやりの心の育成を目指している。特に一時間一時間の道徳の時間を大切に実践している。今年度は校長、教頭、教務主任も各学級で授業を実施することにしている。

四　体力の向上プロジェクト

体力つくり、健康教育を推進し、心身ともにたくましい子の育成に取り組んでいる。業間休みの外遊びや昨年の体力テストの結果を活用した体力づくりに努めている。また、栄養教諭による食の指導や、養護教諭や外部講師を活用した保健指導の充実を図っている。

英語の授業の様子

五　保幼小中連携・家庭・地域との連携

本校の大きな特色として、隣接する幼稚園との連携がある。小学生の通学班と一緒に年長児が登園したり、交流活動を行ったりしている。また、運動会などの行事は合同で実施している。学校づくりには、家庭や地域の方々の協力が欠かせない。情報を発信し、学校のよさやニーズを伝えていくことや、保護者・地域の声を聞き、様々な教育活動に参画していただき地域の力を学校に取り入れることで、温かで人と人とのつながりを大切にした学校づくりを行っていきたい。

行財政・調査研究委員会の要望や取組

特集２

令和三年度「教育行政に関する要望」―その経過と概要―

行財政委員長　海野　隆

六月まで続いた臨時休業、学校再開後の「学校の新しい生活様式」と、様々な対応が求められる中、県内全小・中・義務教育学校の回答を得て、要望書を作成しました。会員の皆様、各校の代表教諭の皆様のご協力に心からお礼申し上げます。

作成しました要望書は、八月三一日に県教育委員会教育長へ提出してまいりました。

要望の概要は以下のとおりです。

詳細は要望書をご覧ください。

Ⅰ　国への要望

○義務教育標準法の改正による教職員定数の改善

○多様な教育課題に対応するための加配定数の増

○小学校第二学年以降への『三五人学級』の拡充、早期実現

Ⅱ　県への要望

一　きめ細かで質の高い教育を子供たちに保障するために

㈠少人数学級並びに少人数指導にかかわること

①「楽しく学ぶ学級づくり事業（小三～六）」の継続

②「中学校生活充実支援事業（中一～三）」の継続

③少人数教育充実プラン推進事業の実施基準の緩和

④特別支援教育コーディネーター加配の拡充

㈡確かな学力の育成にかかわること

①小・中・義務教育学校における学びの広場サポートプラン事業の見直しと弾力化

②小学校専科指導教員の加配措置の拡充

㈢新学習指導要領の実施にかかわること

①「特別の教科　道徳」に関する研修の充実（以下略）

二　学校組織の充実と活性化を図るために

㈠新規採用にかかわること

①新規採用者の計画的・継続的な確保と教員志願者を増やす取組の工夫

②優秀な人材を確保するための採用方法の工夫

㈡人事による活性化にかかわること

①専門的・補助的スタッフの配置の拡充

②欠員解消のための処遇改善

三　充実した教職生活の実現のために

㈠管理職の待遇改善にかかわること

①職務の重要性に見合った給与の改善

②定年延長に伴う管理職の身分保障

㈡教職員の働き方改革の推進と健康管理にかかわること

①働き方改革にかかわる県教委と県学校長会との協働体制の確立（以下略）

㈢教職員の育成にかかわること

①若手教員研修制度の見直し

②特別支援免許状取得の促進

四　本県教育の一層の充実・発展を図るための市町村当局への助言について（以下略）

調査研究委員会の取組

調査研究委員長　安島　可子

Ⅰ　活動のねらい

本県学校教育の現状や直面している課題等の調査を通して、県学校長会が、その解決に向けた提言・活動等を行うための資料を提供するとともに、各学校の特色ある教育活動の推進の一助とする。

Ⅱ　具体的な活動と進捗状況

三つの部会を設定して、大きく、次の四つの活動を行っている。

一　今日的課題に関する調査と研究（第一部会）

○第３期中期ビジョンで目指している「『働き方改革』の実現」に向けて、各学校内の体制づくりや取組、教員の勤務に対する意識等に関する調査を全小・中・義務教育学校の学校長と抽出校の教諭を対象に実施する。その調査結果を分析して、働き方改革の実現へ向

課題

学校の新しい生活様式での教育活動と人材育成

県学校長会副会長　金子　英信
（石岡・国府中）

社会生活に大きな影響をもたらしている新型コロナウイルスの感染拡大によって、働き方や生活様式の様々な見直しが進められてきた。子供たちや教職員の学校生活も大きく変化した。

しかし、どんな状況下でも教員が実現させたい思いは変わるわけではない。今、考えるべきことは、できない理由を並べるのではなく、「できるとしたら何ができるのか。」「そうした思いをどう実現するか。」ということである。

学校現場では、「主体的・対話的で深い学び」の新学習指導要領の実現や「勤務時間を減らし質を上げる」教職員の働き方改革を進める中で、子供たちにかかる負担をできるだけ少なくしながら失われた時間を少しずつ取り戻している。それぞれの学校が試行錯誤を繰り返し、学校の新しい生活様式の中で、子供の学びを保障する教育課程の編成を工夫してきた。今後も教育課程の見直しは、随時求められている。新型コロナウイルス感染拡大における休校も想定して、予測しがたい状況の変化に柔軟に対応できるよう情報収集を行い、チェックと修正を重ね学習計画を立てる必要がある。

学習指導については、「学校生活のスタイルは変われども本質は変わらず。」の考えのもと、ポイントを押さえた重点化を図る学習課題や学習活動を学校全体で意識して取り組んでいきたい。

本校においては、学ぶ楽しさ、できた喜びを実感し、学力の向上を図るために、「主体的・対話的で深い学び」に向けて、今できることからスタートした。基礎的な知識がなければこうした学びは成立できないと考えている。そこで、国立教育政策研究所資料「主体的・対話的で深い学びに向けた学習者と授業者の視点の往還」による授業改善に向けた「学習者の視点」と「授業者の視点」を参考に授業デザインを考えている。学習意欲の向上と基礎的知識の理解に向けてＩＣＴの多面的、多角的活用、分散型や課題別少人数指導を取り入れながら実践している。

また、学校の組織力向上も課題である。教職員が互いに自他のよさに気付き、理解し合える集団づくりを行う中で、よりよい人間関係を構築し、組織力を高めるためには、教職員の持ち味を生かした協働の必要性を感じる。今だからこそ、限られた時間や行動の中で教職員のよさを発見できるチャンスであり、互いに理解し合えるチャンスでもある。とりわけ若手教員の育成は、極めて重要であり、喫緊の課題でもある。若手教員のよさは、行動力であり子供たちとの近い年齢からの親近感である。気持ちを理解してくれる安心感と期待感がある。失敗もあるが子供たちが寄ってくるため指導場面が容易にあり、ＩＣＴ活用に抵抗がないことも魅力的である。これらのよさを見極め活躍する場面を広めていく必要がある。自分の能力をどのように教育の舞台に乗せられるか。自分のよさを伸張し、教師としての資質・能力を高め、子供たちの成長と学びを深めてほしいものである。その鍵を握るのが、学校組織である。日常的なＯＪＴのなかで、ベテランの力を借りながらチャレンジと振り返りを重ね、成長していくことを期待したい。

けて、今後の校長会や各学校の取組への一助とする。義務教育課との共同研究。

○進捗状況
・九月　調査依頼
・十月　集約
・十・十一月　集計・考察

二　特色ある教育活動に関する調査（第二部会）

○各小・中・義務教育学校の研究・研修の充実発展に資することを目的に調査を実施し、結果を県学校長会ｗｅｂページに掲載する。

○進捗状況
・六月　調査依頼
・七月　集約
・八月　集計・ｗｅｂページ作成
・九月　ｗｅｂページ掲載

三　勤務実態（時間外勤務時間）に関する調査（第三部会）

○全ての公立小・中・義務教育・特別支援学校を対象に超過勤務時間等を調査する。

○進捗状況
・九月　調査依頼
・十月　調査
・十一月　集計・考察

四　全連小・全日中の調査及び編集等への協力

○全連小各種委員会の調査協力

次の八つの調査について、各ブロック毎に分担しながら実施する。

・八月　調査依頼
・九月　集約・送付

（調査内容）
・教職員定数改善
・教育環境整備
・教育課題・人材育成
・健全育成
・小学校における教員の養成・育成
・教育課程（新学習指導要領全面実施）
・特別支援教育

○全日中「全国中学研究校便覧」の掲載校を各ブロック毎に一校ずつ推薦する。

掲載校は次の五校
・水戸市立見川中学校
・北茨城市立関本小・中学校
・鉾田市立鉾田北中学校
・かすみがうら市立霞ヶ浦中学校
・五霞町立五霞中学校

推薦にあたっては、第二部会の特色ある教育活動に関する調査を参考にする。

※引き続き各種調査へのご協力をお願いいたします。

経営研究

創意工夫を生かした特色ある教育課程

地域で学ぶ教育活動の展開

那珂・木崎小　松下　由美子

本校は、久慈川の近くにある自然豊かな学校である。全校児童は五七名と小さな小学校であるが、明治五年設立、今年で創立一四八年になり、歴史と伝統のある学校である。三世代家族が多く、地域は協力的であり、学校・家庭・地域が一体となって、教育活動を行っている。

一　特色ある取組

㈠チーム木崎小企画委員

本校には、ＰＴＡ活動の他に『チーム木崎小企画委員』という組織がある。地域の六名の方を企画委員として委嘱し、本校の教育活動をサポートしていただいている。地域の方の専門性を生かした教育活動を通して、児童が様々なことに興味・関心をもち、教養を広めるとともに、地域との絆を深めている。

企画委員が構成する専門部は六つあり、「環境美化企画」では校内緑化の支援、「地域の昔話伝承」では地域の昔話講話、「農業教育」では農業体験、「伝統芸能教育」では地域の無形文化財「門部ひょっとこ踊り」講習と運動会での披露、「科学教育」では那珂核融合研究所の所員の方による科学実験の体験、「金銭教育」ではお金の大切さ、計画的なお金の使い方等についての学習を行っている。

門部ひょっとこ踊りの練習

㈡小中一貫教育

那珂市では、小中一貫教育を実施し、今年で六年目になる。本校は、中学校区の第三中学校と芳野小学校の三校で緑桜学園を形成している。九年間の連続した学びを通し、『自ら学び、心豊かにたくましく生きる児童生徒』を目指して、様々な交流活動を行っている。具体的な内容としては、三校合同のお茶摘み集会、那珂市小中一貫教育の日での縦割り班活動、小学校の運動会における中学生の協力、中学校体育祭への六年生の参加、中学生による小学校への奉仕作業等がある。また、小小交流活動では、エンカウンターによる交流、五色百人一首、科学教室等を行っている。

二　成果と課題

地域の人々と様々な交流をすることを通して、児童の学ぶ意欲、ふるさとを愛する心、地域の伝統文化を大切にする心等を育むことができた。今後は、それぞれの活動内容を見直すとともに、幅広く地域の人材を発掘し、地域で学ぶ取組を推進していきたい。

恵まれた学校環境を生かした教育活動の展開

行方・麻生東小　柏葉　伸一郎

本校は行方市の東部に位置し、農業が盛んな地域である。八年前に四校が統合し現在の麻生東小学校となった。学校そのものは中学校の建物を大規模改修し利用しているため、校舎も校庭及び付帯する敷地も広い。そのような環境の中で、児童二四九名は明るく伸び伸びと学校生活を送っている。

一　特色ある取組

㈠芝生のグラウンドを生かした活動

初代校長の意向で校庭全面に芝生が植えられている。児童は休み時間になると一斉にグラウンドに飛び出して元気に遊んでいる。転んでも痛くないので思い切り体を動かすことができる。そこで芝生を生かし運動会は児童・教師・保護者の全員が裸足で競技している。また、体育の授業ではグラウンド、体育館共に広いので学年体育やブロック体育を行うことができ、複数の教師で指導を行うことができるという利点もある。

㈡体力づくり活動

広いグラウンドを活用し、業間には、体育委員会の児童が計画した縦割り活動や体力づくりの活動を年間を通して行っている。また、フットサルコートが二面ある。自由遊びの時にサッカーがしたい児童は、そこで行うので、芝で遊んでいる児童たちにボールがあたることはないため低学年の児童にとっても安心である。さらに、縦割り活動の効果もあり、異学年間で遊ぶ姿が多く見られる。

㈢学校農園を活用した栽培

敷地内にハンドボールコート二面分の学校農園がある。学校ボランティアの方に耕していただき、そこに各学年でサツマイモや様々な作物の栽培を行っている。敷地内にあるため、移動に要する時間は考慮しなくてよいので、生活科や総合的な学習の時間等の時間内で植え付け・観察・収穫ができる。例年、食育指導

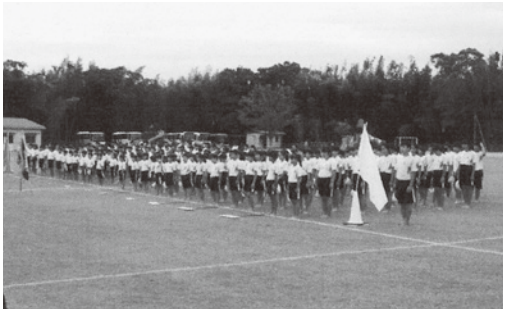
として県や市から講師を招き児童・保護者とで収穫した作物を利用した調理体験を実施している。

㈣学校支援ボランティア活用

行方市に登録している学校支援ボランティアの先生を授業に活用している。専門的な知識や技能を生かせるよう主に、図工の絵画指導をお願いしている。その際には、教室や図工室の他、多目的室を利用し学年単位で指導を受けている。図工以外にも登録されている方がいるので、その特性に応じて指導をお願いすることを考えている。

二　成果と課題

恵まれた施設の中で児童たちは伸び伸びと学校生活を送っている。その結果、県体力つくり優秀校を受賞した。教育活動を行う際も場所の確保を気にせず活動できることも大きな利点である。今後もこの環境を十分に活用し、児童一人一人が「今日も楽しかった」と思える学校づくりに努めていきたい。



運動会の練習の様子

児童の考えを広げ深める授業づくり
～学びの質を高める交流を通して～

龍ケ崎・川原代小　山田　岳男

全校児童七一名の本校は、龍ケ崎市西部に位置し学校の南側には水田が広がっている。また、城西中学校区内にあり、隣接する馴柴小とともに、小中一貫教育を推進している。

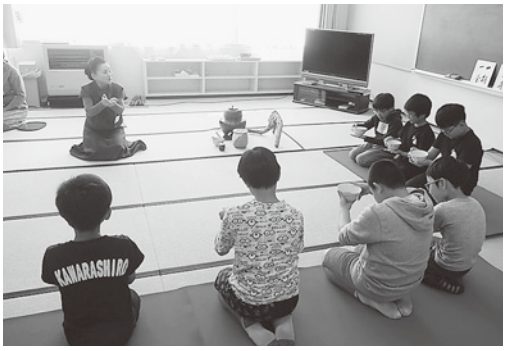
一　特色ある取組

㈠龍の子人づくり学習

本市では、市教委の指導助言の下、子供たちの社会参画力の育成、学校と地域社会の連携・協働の推進・そして教育の質の向上をねらい教育活動を進めている。各教科及び総合的な学習の時間の実践を通して、夢をもち生きる力を自ら育む児童の育成を目指し授業改善に努めている。

㈡ＩＣＴを活用した授業

プログラミング的思考を深めるため、アンプラグドの授業を進めるとともに、ＰＣを活用した授業展開も並行して実践している。技術的な面では、情報教育に詳しい城西中及び馴柴小の教員から支援をいただき、テレビ会議などの実践を重ねた。五年生は、鹿児島県の小学校と桜島大根栽培を行い、テレビ会議システムを通して生長の様子や栽培の秘訣について交流を深めた。



㈢地域の方々との交流

本校のそばに、川原代コミュニティセンターがある。この施設で中心的な役割を果たしている川原代ふれあい協議会の方々による、本校への様々な学校支援がある。例えば、米づくり体験、古くから本地区に伝わるならせ餅体験、グラウンドゴルフを通しての地域の方々との交流、学校公開日における茶道体験及び昔の遊び体験などである。このような魅力的な活動を通して、子供たちは知的な面と心の面を大きく成長させている。

二　成果と課題

ＩＣＴ教育では、これまでの実践が認められ、令和元年八月に日本教育工学協会より「学校情報化優良校」に認定された。今後の課題として、今年度より全面実施されている学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的かつ対話的で深い学びにつながるよう授業実践を地道に進めるとともに、これまで以上に地域の方々に開かれた特色ある教育課程の編成に努めていきたい。

地域に支えられ成長する児童の育成を目指した教育活動の展開

古河・古河第四小　桑原　敬明

本校は、古河市の西南部に位置し、すぐ近くを日本三大河川の一つである利根川が流れる自然豊かな地域である。今年度、創立百三〇周年を迎え、「明るく　楽しい　きれいな学校」をキャッチフレーズに、四五四名の児童が、毎日明るく伸び伸びと学校生活を送っている。

本校では、授業や体験学習への支援等、地域のたくさんの方々の協力をいただきながら、体験活動の充実を図り、思いやりの心をもつ児童を育てることを目指している。その一部は以下のようなものである。

一　保護者や地域との交流

㈠地域の環境学習と防災教育

昨年十月の台風十九号の大雨の際、多くの市民が避難す

特別寄稿

コロナ禍における学校経営
～「合意形成」と納得解～

桜川市教育委員会教育長
稲川　善成

二月末日、国・県からの突然の要請を受けて始まった臨時休業。卒業式・入学式等の学校行事をはじめ、地域行事も短縮・簡略化・中止といった対応を余儀なくされました。そして、万人が初めて経験した「コロナ禍」の社会は、これまで積み上げ維持してきた財産や経済が蝕まれ、かつ教育文化活動の停滞にまで波及し、現在も社会全体が混迷・困惑の渦中にあります。

そのような中、医療従事者等の皆様の命を懸けた献身ぶりを知り、その強い使命感と責任感に感服し、沢山の勇気をいただきました。また、臨時休業中には、感染予防のために保護者や地域、企業の方々から、マスクや消毒液、フェイスシールドや雑巾などの多くの心温まる援助をいただき、教育への期待の大きさを痛感するとともに、教育者としての職責と矜持を鼓舞され「前に進もう」とする希望が湧いたことを思い出します。

おそらく、何処の教育委員会と校長会も一丸となり「コロナ禍の中でできる最善の教育支援は何か」について、何度も真剣に議論を重ね、納得がいくまで知恵を絞り「合意形成」を図りながら、安全・安心を最優先させた教育活動を展開してきたことと思います。

臨時休業時、学校は、保護者や地域の理解と協力を得ながら「前に進める支援策」を全職員で模索し、「合意形成」を図りながら教育実践を積み上げてきました。学習の保障と健康観察のための家庭訪問、遠隔教育支援と学習評価など、子供に直接届く丁寧な支援に尽力された先生方の姿に、感銘を受けました。また、ＩＣＴを活用したリモートによる学習支援、教材の工夫と開発、年間指導計画の修正、新たな生活環境づくりと授業づくりなど、新しい生活様式に準拠した新たな支援を短期間にアップデートしてくれました。学校組織の一員として、心のディスタンスはとらず、団結して新たな教育支援の充実に努めた教職員を誇りに思います。

やはり、教師力・家庭力・地域力のマンパワーは魅力です。正に、学校は地域のシンボルであり子供は宝である証です。改めて社会情勢がどんな状況にあろうとも、可能な限り学校と保護者と地域が一体となって、子供の成長を保障しなければならないと強く感じました。

そこで、私は、コロナ禍にあるからこそ育てたい資質・能力を考えています。それは、『自衛共衛』の精神と行動力です。自他の命の尊重と自律的で共助できる態度を育みたいと思います。今の世代が大人になって「コロナ世代だからな」などと誹謗されないように、リスク管理と創造的な体験活動を通して、未来をたくましく生き抜く力を育みたいと思います。そのためにも、学校と保護者と地域の三者が運命共同体であるという認識に立ち、互いに知恵を絞り納得して協働できる「合意形成」を大切にしたブレない学校経営に期待しています。

「合意形成」は、学校のプロテインとして働き納得解を生み出します。コロナ禍において、「今だからこそできる教育」を求め続けましょう。子供の未来のために全知全能を結して。

る事態となった。自然災害について考え、次のことを行う。

・関係機関の方を外部講師として迎え、渡良瀬遊水池や利根川等の地域環境学習と併せ、自然災害時の防災教育についての学習

・地域の自主防災に関わる方を外部講師として迎え、当時の話を伺ったり、命を守るためどのように行動するかを考えたりする活動

(二)伝統文化に触れる体験

地域に伝わる伝統文化（神楽）を継承する保存会の方々を迎え、和楽器についての話を伺ったり、舞の鑑賞や体験を行ったりする。伝統文化を肌で感じるよい機会である。

(三)公民館講座の体験学習

令和元年度　フォークダンス講座

近くにある公民館で実施している講座の中から、各自希望する講座に参加し、地域の方々との交流を図る。児童は、水彩画・太極拳・フォークダンス等を体験する。

(四)福祉体験

地域の方の協力を得て、点字体験や盲導犬体験等を実施し、福祉について考える機会を設ける。

(五)授業の支援

・篆刻体験

・習字やリコーダーの授業における協力

二　今後に向けて

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、二か月遅れの開始となった今年度、これらの体験活動がどの程度実施できるかが課題である。長年行ってきた陸稲栽培は実施を見合わせた。地域の方々の話を伺う機会や何かを体験する機会は、児童に大きな成長をもたらす。学校の新しい生活様式を踏まえながら、子供たちの成長に向け、今後も地域の協力を得ながら、教育活動を進めていきたい。

市町村教育委員会と学校長会

県南

龍ケ崎市教育委員会との連携

龍ケ崎・龍ケ崎西小
村松　美一

龍ケ崎市の学校長会は小学校一一校、中学校六校の計一七校で構成されている。毎月一回、定例研修会を開催し、「小中一貫教育の推進」「学校経営の充実」の二つを本年度の重点課題として、教育委員会との連携を図りながら研修を進めている。

一　小中一貫教育の推進

龍ケ崎市の新しい学校づくり審議会答申を受けて、中学校区ごとにそれぞれの特色を生かした小中一貫教育が本格的にスタートした。教育委員会と学校が連携して組織する「龍の子人づくり学習カリキュラム策定委員会」で、ガイドブックやノートを作成し、義務教育九年間の連携と接続を円滑に行う教育活動を展開している。また、校長、副校長、教頭、教務主任の四者による研究組織である学校運営研究協議会においても、小中一貫教育の推進を研究テーマとして、六つの中学校区それぞれの特色を生かした実践的研究を行っている。教育委員会との連携と定例研修会における情報交換をもとに、本市ならでの小中一貫教育を推進している。

二　学校経営の充実

現在の学校経営の課題として、「学校における働き方改革の推進」と「新学習指導要領全面実施への対応と授業改善」が挙げられる。毎年、六月に教育委員会との意見交換を行うとともに、八月には、校長会から予算要望書を提出させていただいている。これらにより、学校閉庁日の設定、タイムカード導入による勤務時間管理、給食費の公会計化、様々な学校サポート人材の配置や予算措置などの対応をしていただいている。

また、教育委員会、学校長会、教育研究会の共同で、優れた専門性を有する教員を活用する「スキルマスター・ティーチャー制度」を実施している。これは、学校長会で推薦する特色ある教員を各校の校内研修等で活用し、授業改善につなげるものである。本年度は、プログラミング教育、特別支援教育などの専門性を有する教員七名が推薦され、活躍している。

三　今日的課題への対応

対応に苦慮している喫緊の課題は新型コロナウイルス感染拡大防止への対応であり、二月から教育委員会と学校長会の合同会議を繰り返し実施している。臨時休業、部分登校、それに伴う学習サポートなどの実施や、授業時数確保のための長期休業の短縮、学校再開後の学校行事のあり方等について検討し、共通実践してきた。「今いるメンバーでつくり上げていく。誰かがやってくれるではない。」という意識のもと、教育委員会との連携を密に図り、様々な課題に組織的に対応しながら、学校経営に取り組んでいきたい。

県西

本市校長会と市教委との連携

筑西・鳥羽小
久下　英彦

筑西市の学校長会は、小学校二〇校、中学校七校の計二七校の校長を会員として組織されている。会員相互の連絡協調を密にし、本市教育の発展振興に寄与することを目的として実施している。

一　本会の運営について

本会の最高決議機関である総会を年度初めに開催し、役員会、定例研修会を原則月一回実施している。場合によって、臨時に実施することもある。

定例研修会には、市教育長、教育部長、教育次長、指導課長が同席し、講話・指導・助言・諸連絡等をいただいている。内容は次のとおりである。

○教育長から
本市の教育方針「信頼関係を基盤とした一人一人の『生きる力』を育む学校づくり」に基づく講話

○教育部長
本市教育行政に関する諸連絡等

○教育次長
本市教職員等の人事、服務規律等に関する助言・指導

○指導課長
本市学校教育指導等に関する助言・指導及び諸連絡

特に今年度は、コロナ禍での学校経営を任された校長にとって、市教委と連携して進められたことはとても心強かった。研修会では、新型コロナウイルス感染症対策をしながら、どのように児童生徒の学力保障を行うかについて議論がなされた。市教委からは、その都度、現状を正しくとらえ、他市町村の情勢を踏まえた多くの情報を整理し、確かな方向性を示すとともにご指導をいただいた。

二　本会の研修について

本会では、筑西市の学校教育目標「自ら学び考え確かな学力を身につける」「思いやりのある豊かな人間性をつちかう」「たくましく心身ともに健康な体をつくる」のもと、二一世紀に生きる心豊かでたくましい人間を育成する学校経営を目指し、次の課題について研修を行っている。

㈠明確なビジョンに基づく活力ある学校経営の推進
㈡創意工夫を生かした教育課程の推進による確かな学力を育む教育活動の推進
㈢豊かな心と将来への夢を育む教育活動の推進
㈣児童生徒の自主性・自立性を育てる教育活動の推進
㈤社会や時代の変化に適切に対応する学校経営の推進

相互研修を主とするが、場合によっては市教委から、講師を招聘し、研修している。

今後も、教育長が掲げる「We Love 筑西市！誇れる　筑西市！」の精神で、子供たち一人一人のために連携を深めていきたい。

梅のかおり

—先輩校長から—

教育のスタート地点

前・東海村立
中丸小学校長
照沼　和弘

新採で勤務したのが中学校。一年生の理科の授業を担当し、授業の最後は「教科書に書いてあるのが理想の結果！」などとまとめていた気がする。勢いに任せた教師主体の授業であった。やがて、生徒のもつすばらしい力に感動させられた。授業での発想力、行事での企画力・実行力・団結力。「中学生は一言だけヒントを出せば、自ら気づき、互いに学び合い、ぐんぐん成長するんだな」そう悟った時には二一年が経っていた。

その後、四〇代で初めて小学校へ。「小学生は何もできないだろうからしっかり教えなければ」などと勘違いをしたまま三年生の担任に。そしてすぐに「小学生ってなかなかすごいぞ！」と驚かされた。三年生が自分たちで考え、協力し、何でもやり遂げていくではないか。

そんな児童の姿から私自身が多くを学び「教師がやるべきことは教えることではなく、子供の気づきを見いだし、しっかりと寄り添っていくことだ」などと若手に語り始めたときには、小学校での一七年の勤務を終え、退職の時となっていた。

現在、幼稚園での勤務を拝命し、園児が「遊び」の中で試行錯誤しながらも、日々できることが増えていく姿に感銘を受けている。子供の年齢が低くなるほど、その可能性の芽は柔らかく、どんな方向にでも伸びていけるのだと感じている。

今、教育のスタート地点に立つ機会をいただいた。これまでの経験をどう生かしていくべきかが問われている気がする。

コロナに負けないで

前・大子町立
だいご小学校長
三村　清敏

退職後の夢が三つありました。一つ目は、各地のマラソン大会に出場することです。現職のときにも地元の大会にだけは出場していましたが、退職後は近県各地の大会に出場し、その地方ならではの景色を楽しみながら走ることを夢見ていました。

二つ目は、映画鑑賞です。住まいの近くには映画館がないので、現職のときには見たい映画があっても、年間に数回行けるかどうかでした。退職後は思う存分映画を楽しもうと思っていました。

三つ目は、旅行です。現職のときには、長期の休みを取ることが難しく、日数や行き先が限られていました。退職後は、先を急がず、ゆっくり、のんびりと旅をしたいと考えていました。

ところが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、いずれも叶わぬ夢となりました。残念ではありますが、可能な時期が来るまで、あきらめずに辛抱強く待とうと思います。

各現場では、先生方が一丸となって新型コロナウイルス対策に奮闘していらっしゃることと思います。総体や運動会、体育祭、修学旅行等、子供たちが楽しみにしていたことも、縮小・中止せざるを得ない状況に、心を痛めています。厳しい状況であることは十分承知していますが、どうか、各校長先生方のリーダーシップによる組織的な取組で乗り越えていただきたいと思います。子供たちが安全安心に生活でき、心身ともに健やかな成長が遂げられるよう、陰ながら応援しています。

柔らかさ、しなやかさをもって

前・日立市立
豊浦中学校長
坂本　善久

学校における新型コロナへの丁寧な対応には、頭が下がるとともに、頼もしさを感じています。一日も早いコロナの収束と学校の正常化を祈っています。

三月に退職した私は、申し訳ないほどゆったりと過ごしています。先日は新しい職場の同僚から、頭の体操にとなぞとき問題を出されました。三問のうち二問はひらめきましたが、もう一問はなかなかひらめかず、答えを出すまでに結構な時間がかかりました。分かれば簡単なことなのに、なかなか思いつかず悩みました。そして、自分の頭の固さを反省しました。早くから考える方向を狭く固定し、その中で迷っていたのです。もっと柔らかでしなやかな思考が必要でした。これまで、先入観や固定観念にとらわれて思考停止しないようにと気を付けてきましたが、まだまだ未熟でした。このことは、柔らかでしなやかな思考について再考するよい機会となりました。

また、健康で軽快に動けるしなやかな体づくりも私の大きな課題です。簡単にできそうに思える運動も、実際にやってみると思うようにできません。そこで、以前よりも時間に余裕ができたので、週に二、三日は一時間ほど散歩をするようにしました。また、簡単な運動にも取り組むようにしています。効果は徐々に見えてきました。

柔らかでしなやかな頭と体づくりに努め、充実した新しい生活を築くとともに、社会の一員として少しでも貢献できるようになりたいと考えています。

若い力を感じて

前・潮来市立
津知小学校長
志村　祥江

令和二年三月末日をもって、三七年間の教員生活を無事に終えることができました。その間、多くの方々に支えられ、今は、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

現在は、週二日、初任者指導教員として小学校と中学校の若

い先生方への指導を通し、学校教育に関わっています。立場が変わると、今まで見ていたものが違った景色に見え、とても新鮮な気持ちで生活しています。

私の担当している初任者の一人は、「子供たち一人一人のよさや可能性を伸ばしていける教師になりたい。」、もう一人は、「自分の強みを活かしながら、生徒の個性を伸ばし自信をもたせることができる教師になりたい。」という希望をもっています。二人は、夢の実現に向け、一人一人の子供たちへの理解を深めるために積極的に子供たちと関わったり、教材研究や研修に熱心に取り組んだりしています。私は、このような二人の姿から、若い力の力強さと頼もしさを感じています。私のできることはささやかですが、初任者の夢の実現の一助となるよう、教員としての今までの経験を伝えていくとともに新たな時代にふさわしいものを取り入れた研修を進めていくことで、初任者指導教員としての責任を果たして参ります。

私は、再び、学校教育と関わる時間をいただきました。感謝の気持ちをもって、若い力にしっかりと向き合えるよう、心身ともに健康で明るく充実した日々を過ごして参ります。

ミッション

県南教育事務所
学校教育課　主査
塩幡　克三

「塩幡さんミッションです。」上司の言葉に「私一人でやるんですか。」と答えてしまった。若手教員研修に係る指導教員等研修会を本年度はじめて事務所毎に実施することになった。

事務所にはマニュアルがない。また、コロナ禍の中での実施だ。先輩に相談し昨年度の要項を手に入れた。それを基にゴールから逆算して、いつまでに何をするのか、どんな課題があるのかを明確にし計画を立てた。課内の同僚も係分担に協力的で、話し合いながら進めた。時には、先輩が進んで課題に取り組んでくれた。

研修会が無事に終わり、参加者の感想を読んだ。「同じ悩みを持つ指導員が結構いて安心した。」「校内に同じ立場の教員がいないので、本日の研修は有意義であった。」この感想等を課内で回覧・共有した。

ミッションがあって、それに立ち向かうことで人は育つと考える。当初、後ろ向きであった自分が恥ずかしい。課題解決の方策を共通理解し、組織を生かし適材適所に人を配置する。同僚の協力と連携を大切にしながら実践する。そして、取組の結果を評価しながら改善していく。

校長は、学校教育目標の具現化のために、リーダーシップを発揮しマネジメントしていくのは当然であるが、やるのは大変である。学校の組織を活性化させる五つのワークを先輩から教わった。ヘッドワーク、フットワーク、ネットワーク、ハートワーク、チームワークである。

最後にワクワクしながら仕事ができる学校づくりを目指してほしい。

みんなが笑顔に

前・取手市立
藤代小学校長
根本　賢二

今年三月初旬、新型コロナウイルス感染症が全国的に広がり始め、本市の小中学校も臨時休校の措置を取ることになりました。臨時休校に入る前日、いつまた子供たちに再会できるだろうかと不安の中、私は校内放送を使って「明日から学校はしばらく休みになります。またみんなが笑顔で登校できる日まで健康に注意して生活してください。」と子供たちに伝えました。今振り返ると、これが三八年間の教員生活最後の全校児童に伝えた言葉となりました。その後卒業式だけは感染症防止対策を取りながら、卒業生と保護者と教員のみで実施できましたが修了式や離任式は実施できずに子供たちに別れを伝えることはできませんでした。自分の定年退職の時をこのような形で迎えるとは夢にも想像していませんでした。

定年退職後の六月、感染症の収束はまだ見えない中、前任校のホームページを覗いてみました。子供たちが楽しそうに授業や活動をしている姿を目にしました。やはり学校は子供たちの笑顔が一番と大変うれしく思いました。

現在、学校連携支援員という仕事をさせていただいています。まだ、始めて数ヶ月ですが、この仕事を通して、学校には課題を抱える子供たちがたくさんいることを改めて実感しています。子供たちが課題を乗り越えて立派に成長してくれることを心から願っています。子供たちや先生方、保護者の方々等みんなが笑顔になれるようにもう少し頑張ってみようと思っています。

道は開ける

前・古河市立
古河第二中学校長
髙森　淳史

五年間の学校長としての職を経て、現在は若手教員の指導員として学校教育に関わらせていただいています。新人とタッグを組んだ日々の学校生活は、教育現場最前線の緊張感と活気ある喜びに満ちる反面、自らの体力の低下に驚き、情けなさも感じる毎日です。新しい生活様式を維持する中での、子供との関わり・子供同士の関わりは、なんともまどろっこしく、「青春」の暑苦しさ満載の学校生活が根っこの自分に、今の学校に何が寄与できるかを探す毎日です。

今年度、我が町では、中学校の体育祭が九月に開催されます。学校はなんといっても祭り。子供たちと共に命沸かす、時・場所こそ、日々の学びを確かめ、高め、深める欠かせない体験だと確信しています。グラウンドに体育祭のテントが立ち並び、真っ白なラインが引かれている光景を見ると、学校最高！と心躍ります。

校長先生方は、めまぐるしく変わる状況の中で、心身とも疲弊する毎日でしょう。しかし、

校長室で悩み、先生方と目論み、決した校長先生の選択こそ、生きる希望です。子供たちの選択すべてに夢と希望があるように、校長先生は、その道の喜びと責任を引き受け道を開いたのです。校長先生と先生方、児童生徒諸君、保護者の皆さんと共に歩めば、そこに道はできる。

先生方の学校経営に心からエールを送ります。どうかお体に気を付けて、先生の思う教育を実践なさってください。そこに大道はない。ただ、あなたの道があるのみ。

子供たちと共に

前・結城市立
江川北小学校長
角田　実

退職して二年目に入った。今年度も引き続き、再任用の少人数指導教諭として、週五日間中学校で数学を教えている。

退職後何をするか、何がしたいか、最後の一年を迎えたころ考え始めた。そのころ学校は、算数の研究を進めており、管理職、教務主任、特別支援学級担任等が算数の授業に入り、全学年で少人数指導を進めていた。私もその一員として、日常的に授業に関わっていた。子供たちから、「わかった」「できた」という声を聞き、教えることの喜びを再び感じることができた。また、小中連携の取り組みとして、近隣の中学校で数学の授業をする機会を与えてもらった。授業の振り返りの中で、「今日のような授業だと、私も数学を好きになれるかもしれません」という発表があった。この言葉を聞き、私は大変うれしくなり、「まだ自分の授業力は錆び付いていない。何とか通用するかな…」という思いをもつようになった。

退職の数か月前に、週四日勤務のお話があった。「週三日休んで何をする？暇を持て余さないか…」、「一年間フルタイムで授業をやり続けられるか…」。迷いと不安があったが、再任用で数学を教えることを決めた。

今は、週一九時間数学の授業を担当している。本格的に授業をするのは一五年振りだったが、一緒に授業する先生から学びながら、昔を思い出しながら、少しずつ「勘」がもどってきた。

週末は、疲れを感じるときもあるが、子供たちから元気をもらい、日々楽しんで授業をしている。今後も体力と気力が続く限り、子供たちと共に歩んでいきたい。

読んでみませんか

「夜の風見鶏」

著　書　阿刀田　高
発行所　朝日新聞社

常陸大宮・上野小　齋藤　慶一郎

今からちょうど四半世紀前、私はカナリア諸島に住んでいた。日本語は言うに及ばず、英語も通じぬ土地であった。当時はインターネットが今ほど発達しておらず、それに加えてアフリカ西岸沖の辺境の島にあっては朝日新聞衛星版が唯一の日本の情報源だった。日々活字に飢えて暮らしており、新聞をそれこそ隅から隅まで繰り返し読んだ。

現在は書籍でも情報でも何不自由なく手に入る。当時と今とでは、言葉や文章への向き合い方に大きな隔たりがあるように感じている。

当の新聞に『夜の風見鶏』というコーナーがあり、毎週阿刀田高のエッセイが連載されていた。その中の「たった一人の聴衆」というエッセイが私の心に残り、現在に至っている。

どういう話かと言うと…著者が中学一年のときに英語の先生から「ブラザーに相当する日本語はない」と教えられ、目からウロコが落ちるような感銘を受ける。

しかし、後日同級会でこの話をしても、誰一人として覚えていなかったのである。聞いたのはクラス全員だったが、受け止めたのは著者一人であり、それが著者にとってとても有益な教えとなった、というものである。

昨年、ノーベル化学賞を吉野彰さんが受賞したことは記憶に新しい。吉野さんが化学に興味をもつようになったきっかけは、小学四年生のときに新任の女の先生から勧められた一冊の本『ローソクの科学』だったという。この話はあっという間に広がり、ちまたの本屋に『ローソクの科学』が平積みされた。

ＮＨＫでは早速、追跡取材を行い、その時の女の先生が北海道で元気に暮らしていることを突き止める。そしてこの感動的なエピソードを伝えるのだが、当の先生は本を勧めたことなど全く覚えていなかった…。

こうした事例は意外に多いように感じる。

大勢の中のたった一人にだけ届くようなメッセージが、その特殊さゆえにかけがえのない価値をもつ。その受け取り方は、送り手も考えていないようなレベルにまで飛躍したり、受け取る側の事情もプラスされて非常に大きな効果をもたらしたりすることもあるようだ。

また、こちらが口角泡を飛ばして話したことよりも、何気なくかけた言葉や雑談が、その子の琴線に触れ、ずっと覚えてくれている、ということが私の経験上も何度かある。

現在校長として、全校児童の前で話す機会は多い。その話の意味するところがどのくらい伝わっているのか、例え一人であっても子供の心に火を灯すことができているのか、常に自問自答しつつ、メッセージを送り続けている。

本書は四四編のエッセイが収められ、今回は紙面の関係で一編だけを取り上げたが、その他に「手品について」、「死刑廃止論の行方」、「全員一致を考える」、「子どものユーモア」、「名をばたたえん」等々、人間の機微を捉えた含蓄深い内容が詰まっている。

しかし、世間的にはあまり評価されていないのか、とうに絶版となり、古本屋で見かけることもまずない。もしかすると私が「たった一人の聴衆」なのかもしれない。と同時に、この拙い文章が、どなたかお一人にでも届けば、と不遜にも願いつつ書かせていただきました。

ひばり

「愛でる」
常総・玉小　飯田　正二

地域とともに子供たちを育てたい

那珂・菅谷西小　猿田　智之

本校は全校児童数三七六名で、以前は自然に囲まれた中に学校がありました。ここ数年で宅地化が進み、環境も大きく変わりましたが、昔から地域から愛されている学校です。

私は教頭時代、地域の方々に大変お世話になりました。小学校では、コミュニティーセンターを中心とした学校行事への積極的支援、中学校では、地域のボランティアによる学習補助、環境整備、読み聞かせ等において様々な協力を得て教育効果を高めることができました。

地域にとって、子供は宝です。その子供たちのために、地域の方々と積極的に意見を交わし、地域を理解し、互いに協働して活動することは大きな教育効果があります。地域とともによりよい学校づくりを進める上で、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、積極的な交流ができないことがとても残念でなりません。一日でも早く、地域人材や教育資源を積極的に活用した教育活動が再開できるように、今は早くこの事態が沈静化する事を願うばかりです。

ゆめときぼうの木

小美玉・上吉影小　萩野谷　邦夫

本校は、ダイヤモンドシティ小美玉市の北部に位置し、近くには茨城空港や航空自衛隊百里基地などが存立しています。明治一九年に創立され、今年で一三四周年を迎える、長い歴史と伝統を有している学校です。令和四年度には小川北義務教育学校として、新たな歴史を刻もうとしています。玄関前には、樹齢一三〇年余りの泰山木という学校のシンボルともいうべき名木がそびえ立っています。木の名前にあやかって、たくましく伸びよとの願いを込めて植えたとのことです。学校が現在のところに移った際には、皆で力を合わせ朝早くから夜中までかかって植え替えたそうです。その熱心さが通じてか毎年初夏には白色で芳香のある大輪花を開かせます。この木には「ゆめときぼうの木」という愛称があります。当時の児童全員が学級で話し合い、思いを託してつけたものです。今も子供たちは泰山木に見守られ、夢と希望をもってたくましく伸びるぞという気概に満ちた充実した日々を過ごしています。

思い出坂・なかよし坂

高萩・高萩小　大髙　基

高萩小学校は高台に位置し、登校するにはスキー場上級コース並みの坂を上らなければならない。誰が命名したか不明であるが、思い出坂・なかよし坂を今日も子供たちが上ってくる。

坂を上ると、高さ三〇ｍ・幹回り太いところで八ｍのけやきの巨木が日陰となって迎えてくれる。低学年は何度も休憩し給水し、一歩一歩踏みしめてくる。「おはようございます」と声をかけると、様々な「おはようございます」が返ってくる。一人で登校できなかった子も歩いてくる。この坂で体も心も鍛えられ、成長してきた。

高萩市教育委員会勤務時は、昼休みにこの坂をおにぎり片手に十往復以上して八幡宮にお参りすることもあった。近所のお散歩おじさんと張り合ったこともあった。

子供たちは雨の日も、暑い日も変わらずこの坂に向き合い、歴代の校長は子供たちの日々の成長や変化を見守りながら声をかけてきた。子供たちの姿に、私もまたこの坂に向き合ってみたいと思うようになった。

コロナ禍の学校

鉾田・鉾田北小　狩野　秀彦

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で学校が大きく変わろうとしている。今までの授業や行事、学校生活の基本的な考え方が通用しない状況に陥り、現場は困惑し、想定外の対応に追われている。そもそも学校は、三密の状況が前提で営まれるものである。子供たちが互いに群れ、切磋琢磨し、価値観の違いを知り、良好な人間関係力を育む場である。十分な対策を講じても常にリスクは伴う。

新型コロナウイルスは、学校だけでなく社会の危機を引き起こそうとしている。人と人との関係を切断し疎遠にして、経済活動を停滞させ、社会の解体を進めている。治療薬やワクチンの開発も重要で待たれるところだが、同時に社会を維持するために、孤立化や分断を回避し、良好な人間関係を維持できる対策を行う必要があるだろう。

学校は、コロナストレスで変調を余儀なくされた子供に安定を与える場、人間関係を構築する場として益々重要になることは間違いない。新しい学校の在り方の構築が急務である。

地元の里山を楽しむ

土浦・菅谷小
平田　豊

私の趣味は山登りである。特に夏休みは仕事のやりくりをして、北・南アルプスなどに登り、高山の空気にふれることを楽しみにしている。しかしながら、今年の夏はコロナの影響を考えると甲信方面への遠征は自粛せざるを得ない状況であった。

そこで目を向けたのが安全・安心な地元の里山である。具体的にはつくばの宝篋山や土浦の小町山・朝日峠周辺の山域である。ここは自宅から車でわずか十分ほどで気軽に山登りを楽しめる。

実際に歩いてみると、地元のボランティアの方々が丁寧に登山道の整備を行っており安全で登りやすい。また、清流あり、小滝あり、美しい広葉樹の林あり、奇岩ありと変化に富んだ山登りを短時間で楽しむことができる。さらに、山頂からの展望は素晴らしく、富士山、スカイツリー、鹿島港などを見渡すことができる。

おそらく、コロナ感染が無ければ、私は他県の高い山ばかりに目が向き、地元の山の素晴らしさに気づくことはもっと遅かったかもしれない。現在コロナ収束の見通しはまだもてない。しばらくの間は感染防止に十分留意しながら、地元の里山を楽しんでいきたい。

時代

石岡・東成井小
岡　祐己子

「むかし、あるところに…」とスピーカーから聞こえると、前向き給食中の子供たちは聞き耳を立て目を輝かせる。グループでおしゃべりをしながらにぎやかに食事をしていたのは遠い昔のことのよう。

「今日はイスラエルの昔話です」「二年生の朝の読み聞かせの時の絵本です」「今日は落語です」ボランティアさんが、毎回工夫を凝らし、表情豊かに読みすすめると、学校中がしーんと静まりかえる。

こんな瞬間も悪くないな。確かに制限の多い生活をしているけれど、楽しいことはたくさん見つけられるし、子供たちのいろいろな表情を見られるし。先生たちのひねり出す工夫もおもしろい。ちゃんと手を洗う子も増えてきた。

地域の大人たちが、「できることはないか」と、どんどん学校に電話をくれる。来てくれる。

人間ってすてきだな。強いな、楽しいな、たくましいな。あたたかいな。

『あんな時代もあったねと、きっと笑って話せるわ』と中島みゆき氏も歌っていた。今日は一体どんな風が吹くのやら。

風に吹かれ、風を受けて、したたかに生き抜いていく。そんな子供になってほしい。

歌声の響く学校に

結城・結城西小
斎藤　紀子

新型コロナウイルス感染拡大により、学校から子供たちの歌声が消えた。合唱や管楽器の演奏は「感染リスクの高い活動」となるため、音楽の授業もままならない現状である。

音楽科教員として過ごしてきた日々の子供たちとの思い出は、常に歌とともにある。校内合唱コンクールに向けて全力で取り組む姿、卒業式での感動的な歌声…。中でも、東日本大震災から間もない三月末、休校明けに何とか実施できた離任式の後、クラスの子供たちが昇降口前で歌ってくれた「この星に生まれて」の歌声は今も耳に残っている。自分も子供たちも、笑いながら泣いていたっけ。

四月に本校に赴任し、「新しい生活様式」での学校生活が続いている。楽しみにしていた行事等が縮小になる中、不満を口にせず頑張っている子供たちが心から愛しい。その子供たちのため感染対策に取り組んでくれる職員の姿がありがたい。この文章が掲載される頃には少しは状況がよくなっているだろうか。

子供たちの歌声が響き、元気な笑い声があふれる学校を、もう一度つくっていける日が来ることを願いながら、いま子供たちのためにできる精一杯を積み重ねていこうと思う。

人を育てる

筑西・長讃小
大森　弘

私の最初の赴任地は高萩市。市内の製紙工場の社宅に住み、学校まで通った。山間部で育った自分にとって、海が見える環境は刺激的で、海から出る朝日を眺めたり、砂浜を散歩したりして過ごした。その一方、工場から出る独特な匂いになかなか慣れない日々を送った。

先生と呼ばれ、生徒指導や保護者対応など、初めての学校での仕事も慣れずに途方に暮れる毎日だった。そんな時、たくさんの先生方からご指導していただいた。自宅まで伺い、夕飯をご馳走になり、授業の展開、子供との接し方など多くのことを教えていただいた。指導は厳しく、授業の後は必ず反省を求められた。叱られることも度々であった。そして、指導を受ける度に、「最初の赴任校はとても大事だぞ」と言われた先生の言葉は忘れられない。

今でも年に一回、私を育ててくれた高萩市に車を走らせる。現在は、製紙工場が無くなり、あんなに嫌っていた匂いが無くなっていることに寂しさを感じる。そして、浜防風が自生する砂浜を歩きながら当時を思い出す。子供の指導を通して、たくさんの先生方から育てられて、今がある。今度は、この地で人を育てていけたらと考えている。

編集後記

ウィズコロナの中で、手探りの学校運営ですが、幼小中を見通した教育活動や特色ある学校経営が着実に成果をあげてきています。また、「先輩と語る会」は中止となりましたが、「梅のかおり」では、「コロナに負けるな」との応援・激励の言葉をたくさんいただきました。

貴重な原稿をお寄せいただきました皆様に感謝申し上げるとともに、皆様のご健康とご活躍を祈念いたします。